

府社協は2月8日に大阪国際交流センターで小地域ネットワーク活動リーダー研修会を開催(850人が参加)。今年は、各地域で準備が進められている地域包括ケアシステムの構築に向けて、小地域における助けあい・支えあい活動の役割や重要性を再確認する機会となりました。

“安心と安全の福祉のまちづくりを”

府社協 地域福祉部

TEL.06(6762)9473 / FAX.06(6762)9487

基調講演

永田さんは、地域包括ケアの考え方について、「本人が今まで大事にしてきた地域での暮らしやつながりを大切にすること」「地域を支える関係者と専門職が協力して、その人を支えること」が重要であると確信。

また、介護保険が変わる中、これからの地域づくりには支える人も支えられる人も、「役割」や「出番」をもって輝けることが大切であることを話しました。



同志社大学 社会学部
永田 祐 准教授

パネルディスカッション

摂津市

身近な福祉活動拠点を活かした認知症支援の地域づくり

鳥飼西小学校区福祉委員会
認知症支援ボランティアグループ ほへみの会

鳥飼西小学校区福祉委員会で、市内に4カ所ある福祉活動拠点のひとつを使って、平成10年から寝たきりや閉じこもり予

防を目的とした「リハサロン」に取り組んできました。

さらに平成23年、社協が「認知症の人と家族を地域で支えるための人材育成」を目的とした講座を開催し、ほへみの会が誕生しました。



石井 奈美枝 さん



松下 宗政 さん

「認知症の理解というテーマを切り口に地域福祉」を具体的に感じることができ、今では両者が一体となって小地域福祉活動に取り組み、リハサロンでも当事者の話し相手や送迎が行われるなど、誰もが安心して参加できる環境づくりが進んでいきます。

和泉市

高齢者サポートセンターの取り組み

鶴山台北校区社会福祉協議会
地域福祉活動計画策定のため



佐藤 正浩 さん

のワークショップを通じて明らかとなった、「ちよつとした暮らしの困りごとを抱える高齢者が多い」という地域課題の解決をめざして、校区社協を中心に町会・自治会、老人会など多様な人材が活躍できる有償による助けあいのしくみとして、高齢者サポートセンターが発足しました。

主な活動内容は、庭の草むしりや大工仕事など。男性14人・女性6人のボランティアが活躍しており、1時間8000円の設定で気兼ねなく依頼できるため住民からは好評です。

「もつと気軽に『困った』『助けて』といえる、そんな地域づくりをめざします」と会長の佐藤さんは力強く語りました。

太子町

自治会が生み出した自治型福祉NPOとその13年のあゆみ

磯長台の福祉を考えるついでに
孤独死など多様な高齢者問題に自治会として取り組みを進め

ることを目的に、「福祉に関心のある自治会の会員」が自発的に集まった組織体、これが磯長台の福祉を考えるついで(以下、ついで)です。

現在の会員数は全世帯の26%にあたる117人で年々増加中。「磯長台に住む全世帯の人の幸せ」を願い、高齢者も若い世代も安心して暮らしていることのできる地域をめざします。

ついででは、25を超える活動を展開しており、毎日型の安否確認や男性対象の健康づくりの集い、生活を守る移送サービスなど、住民ニーズに応じた柔軟で幅広い活動を行っています。



佐藤 貞良 さん

代表の佐藤さんは、「失敗も許しあえる住民相互の信頼関係を基盤に、みんなが主役のまちづくりを続けていきたい」と今後に向けた抱負を語りました。

